



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第三三〇号〕

りつとう  
立冬

十一月七日

## 和敬清寂

暦は、冬を迎えました。気温も下がりが、「ぬくもり」が欲しくなる季節でもあります。この時期、お茶の世界では、風炉ふうろをしまい、炉ろを開いて火入れを行なう「炉開きろひらき」が行なわれます。

炉をひらく火の冷え冷えと燃えにけり

飯田蛇笏

私も茶道を習っていた頃、風炉から炉に変わると、火が近くに感じられ、冬になった感じがしたものです。今では、茶道に限らず、囲炉裏を開くのも「炉開き」といわれるようです。

京都に大徳寺という茶道にゆかりのお寺があります。千利休や小堀遠州ら茶人がかつて境内に庵を結び、今も多くの茶人が茶席を設けるお寺です。観光客で賑わう金閣寺と歩いて十分ほどの距離ですが、こちらはわびさびの世界で、観光客の姿はほとんどなく、世界遺産でもありません。この大徳寺のご住職から、茶道の精神を説くことばを教えてもらいました。

和敬清寂、「わけいせいじゃく」といいます。

もともとは中国から入ってきた禅のことばで、室町時代、將軍の足利義政がお茶の師である村田珠光じゅこうに「茶とは何か」と尋ねた際に、珠光が応えたことばで、千利休も茶道精神を表わすとして使ったと伝わります。

和敬は茶会で主人と客が相互に心をやわらげ、つつしみ敬い合うということ。静寂でなく清寂は、茶室や茶道具、庭など汚れなく、清らかに保つ心得をいいます。確かに、茶道の点前では、道具を清める所作が多いですし、茶室に入れば誰もが平等に扱われます。そこでは争いごとは御法度です。

日々の暮らしではあまりなじみがありませんが、このことばには、和する心、敬う心、清らかな心、静かな心の四つの心があるように思いました。どんな時代にあっても「和敬清寂」の心を忘れずにいたいと感じました。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ 伊勢の匠展～伝統の伊勢みやげ～

伊勢路には歴史の中で育まれ、普段の暮らしに溶け込んだ伝統工芸品が数多く残っています。これらの伝統工芸品ができるまでの過程や職人さんの手仕事に注目して、実演を交えながら作り手とその作品を紹介します。

と き／11月3日(祝・火)～11月15日(日) 10:00～17:00  
ところ／【展示・販売】大黒ホール(伊勢路名産味の館2階) ※入場無料  
【工作教室】かみしばい広場横

#### ● 展示・販売(予定)

伊勢根付: 中川忠峰/伊勢一刀彫:岸川行輝/伊勢玩具:畑井商店/松阪もめん:ゆうづる会  
伊勢春慶:伊勢春慶の会/伊勢和紙:大豊和紙工業株式会社/伊勢提灯:岩田提灯店/  
伊勢型紙:ゆうづる会/伊勢型紙:株式会社大杉型紙工業/伊勢木綿:白井織布株式会社/  
伊勢擬革紙:擬革紙の会/伊賀くみひも:くみひも平井/伊賀焼:小島憲二、陽介/  
市木もめん:向井ふとん店/さるはじき:時計屋なかの/木漆工:野嶋峰男/  
神殿:株式会社宮忠/鈴鹿墨:鈴鹿製墨協同組合/竹笛:伊勢特産玩具製作所/  
なすび団扇:合名会社賀来商店/日永うちわ:株式会社稲籬/那智黒石:飯谷梅管堂/  
四日市萬古焼:酔月陶苑/和釘:久住商店/尾鷲わっぱ:ぬし熊/かぶら盆:ぬし勘

#### ● 工作教室

3日(祝・火) 伊勢根付/中川忠峰:ペンダントトップ、ストラップ 800円  
4日(水) 木工細工/野嶋峰男:箸づくり 500円、スプーンづくり 700円  
5日(木) 伊勢和紙/中北喜亮(大豊和紙工業):伊勢和紙ハガキに型紙紙付け 500円  
6日(金) 伊勢木綿/香袋づくり 700円  
7日(土) 伊勢木綿/村上志奈(白井織布(株)):伊勢木綿でブローチづくり 660円  
7日(土)・8日(日) 伊賀くみひも/組ひも体験 1100円 ※場所/くみひも平井  
9日(月)・10日(火) 伊勢玩具/ヨーヨーの絵付け 610円、けん玉、コマの絵付け 各810円  
11日(水) 伊勢一刀彫/岸川行輝:千支彫り 800円  
12日(木) さるはじき/時計屋なかの:さるはじきづくり 600円  
13日(金) 伊勢根付/中川忠峰:ペンダントトップ、ストラップ 800円  
14日(土) 伊勢一刀彫/太田結衣:だるまのキーホルダー 1900円  
15日(土) 木工細工/野嶋峰男:箸づくり 500円、スプーンづくり 700円

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838  
※諸事情により、金額や場所・内容に変更が生じる場合がございます。

## 五十鈴塾

### ○ 『旅する神々⑦～吉備津彦命と温羅』

時代は3世紀末。大和・出雲と拮抗するかのように国造りの進んだ吉備に海の彼方の遠国から温羅が飛来しました。

乱暴狼藉をつくし、地主神たちの手に負えないところに四道將軍の吉備津彦命(第7代孝靈天皇の皇子)が3人の家来とともにやってきて戦い退治します。

そして、その首を吉備津彦神社の釜の下に封じたと伝わります。

この伝説が吉備津彦神社創建の基となり、鳴釜神事(祈禱)を伝えることとなりました。また、この伝説がおとぎ話の桃太郎を生むモチーフとなったといわれています。

なぜ遠国から吉備へ、なぜ大和から吉備へ、今回は伝説の中での虚実を解いてみます。

と き／11月16日(月) 18:30～20:00  
講師／神崎 宣武(民俗学者・五十鈴塾塾長)  
参加費／一般1,650円 会員1,150円  
場所／五十鈴塾右王舎  
講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○ 節気菓子

こうよう  
紅葉

伊勢路の景色は、未だ秋の名残りを留めています。  
紅葉の盛りを表す二色のきんとん。行く晩秋を惜しんで染めた彩りです。

くり  
栗かのこ

夕焼けが終わり、やがて伊勢路の空に浮かぶのは、明るく冴えた月の姿。  
鹿の子模様の餡玉に栗をのせて、月が映える澄んだ秋の夜空に似せました。

もち  
うずら餅

草深い野の情景を連想させる鶺鴒は、万葉の時代から詩に詠まれてきました。  
栗と粒餡を求肥で包み、可愛らしい鶺鴒の姿をお菓子のかたちに写し取りました。